



(写真) @MariaCorinaYA “ゴンサレス候補が大統領選で再選した場合のベネズエラについて予想”

ゴンサレス候補が当選したら

株式会社ベネインベストメント
松浦 健太郎

ベネズエラの大統領選まで残すところ5日に迫っている。来週の今頃には新大統領が決まっていることになる。

前号「[ウィークリーレポート No. 364](#)」にて、マドゥロ大統領が再選した場合に想定される今後について考察した。

本稿では仮にゴンサレス候補が当選した場合、ベネズエラがどのようになるか「外交」「制裁」「債務再編」「経済」「懸念点」について予想してみたい。

米国の大統領選は大きな問題にならず

最初に外交分野について、考察したい。

当然のことだが、仮にゴンサレス候補が当選した場合、ベネズエラ的外交政策は180度転換する。

反米国家の急先鋒として知られるベネズエラだが、親米国家に代わることは間違いない。

マドゥロ大統領が再選した場合、共和党のトランプ前大統領が当選するか、民主党のカマラ・ハリス副大統領が当選するかで未来が大きく変わるが、ゴンサレス候補が当選した場合は、トランプ前大統領でもハリス副大統領でも良好な関係を構築するだろう。

ただし、トランプ前大統領が当選した場合、主従関係がより明確になり、米国とベネズエラの合意や取り決めは米国に利益の大きいものになることが予想される。

欧州との関係も大幅に改善。

歴史的にベネズエラと関係の近いスペイン・ポルトガル・イタリアなどを中心に取引関係が拡大することだろう。

ゴンサレス候補の当選は、日本にとっても間違いなくプラスに作用する。政府間協議が円滑にできる関係になり、故チャベス政権・マドゥロ政権下で累積した懸案の問題も前進し、中長期的に両国の取引は拡大することだろう。

中国との関係は現在よりも希薄になる。

ゴンサレス候補は中国について「重要なパートナー」と認識しており、中国を敵国と認識することはないだろう。政権交代後もベネズエラにとって中国は重要な原油輸出国の1つであり、重要性は変わらない。

ただし、マドゥロ政権のように経済特区を設置し、中国企業の投資を呼び込むなど積極的な中国優遇策は控えると思われる。

また、欧米優先の外交政策を展開するため、相対的に中国との関係は疎遠になることが予想される。

一方、ロシア・キューバ・イランとの関係は完全に切れる。これらの国は中国と違ってベネズエラとの経済関係はほとんどなく、反米国家としての結束から関係を維持している。政権交代し、親米国家になった以上、これらの国との関係を維持する理由はなくなる。

制裁は全解除が大前提

外交に関連する重要テーマとして、「制裁」についても触れておきたい。

欧米の制裁は「民主主義を侵害するマドゥロ政権を罰し、対応を改めさせる」という建前がある。

政権交代をした場合、制裁を維持する理由がないため、ゴンサレス政権の発足を確認した段階で比較的短期間のうちに全解除されることが予想される。

これにより、石油産業に重くのしかかっていた障害が取り除かれ、欧米を中心に国際的な政府認識が統一され、債務再編交渉に大きな弾みがつく。

欧米メディアは、マドゥロ政権の支持が低い要因について「強権政治」「非民主主義的な政治」とリンクさせる傾向がある。

この指摘が間違っているとは言わないが、仮に「強権政治」「非民主主義的な政治」が不人気の理由であれば、チャベス政権も不人気であったはずだが、故チャベス元大統領は国民から強い支持を受けていた。

マドゥロ政権の支持が低い一番の要因は「経済苦」。国民は自身の生活が厳しいから政権交代を望んでいるのが実態である。

2014年～16年までの経済低迷の理由は「原油価格の急落」だったが、2017年以降のベネズエラの経済を押し下げている主な要因は経済制裁である。

欧米諸国も本音ではこのことは理解しており、ゴンサレス政権を安定させ、二度とベネズエラに左派政権を誕生させないためにも、IMF など国際組織の融資の枠組みを提供するなど最大限ベネズエラの経済回復をサポートすることだろう。

債務再編 25年以内に本格始動も

現在、ベネズエラの債務再編交渉が止まっている要因は主に2点。

1点目は、“米国の経済制裁がマドゥロ政権との合意を禁止しており、マドゥロ政権と債権者が債務再編交渉で合意することができないため”。

2点目は、“米国政府がマドゥロ政権をベネズエラ政府と認識していないので、全てのベネズエラ債(国債・PDVSA債)の準拠法となっているニューヨーク法においてマドゥロ政権がベネズエラ政府と認識されないため”である。

前述の通り、仮にゴンサレス候補が当選した場合、米国はベネズエラに科している制裁をすぐに解除することだろう。

また、米国政府はゴンサレス候補をベネズエラ政府と認識することになるので、政府認識の問題もクリアする。

つまり、ゴンサレス候補が当選するという事は、債務再編の障害になっている2つの問題が無くなることを意味する。

また、デフォルト(対外債務不履行)問題の解決はベネズエラにとっても非常に重要である。

IMF・世界銀行などは債務再編を円滑に進めるために金融支援を行うだろうが、それはあくまでデフォルト問題の解決を目的としたもの。

ベネズエラが持続的な経済成長を遂げるためには国際金融市場に復帰する必要があり、そのためにはデフォルト問題の解決が必須である。

2025年1月に米国は経済制裁を完全解除し、早ければ25年前半にゴンサレス新政権と債権者による債務再編交渉が本格的に始まると想像している。

国内経済 大きくプラス成長

前述の通り、2017年以降のベネズエラの経済を押し下げている最大の要因は米国の経済制裁である。

制裁が無くなればベネズエラ原油を購入する外国企業が戻る。Chevron以外の米国企業・インドなどがベネズエラ産原油の購入を再開することだろう。

ただし、PDVSAは、クラサオ製油所やボナイレの原油ターミナルを使用できなくなってしまった。また、原油輸出ターミナルの整備不足、人材不足なども重なり、すぐに以前のような水準に戻ることはない。とは言え、ベネズエラ経済が大きくプラス成長することは間違いない。

石油産業が成長すれば、ベネズエラの消費市場も拡大する。将来的な経済成長を期待し、石油産業以外の分野でも外国からビジネス投資が流入するだろう。

マドゥロ政権 選挙結果を認めない可能性も

ここまでポジティブな面を紹介してきたが、懸念材料も存在する。

最大の懸念は、ゴンサレス候補の当選発表後のマドゥロ政権の反応である。

マドゥロ大統領は、一貫して「選挙結果を認める」と述べており、選挙結果を認める意思を確約する署名式でサインもしている（「ウィークリーレポート No.1079」）。



(写真) 大統領府

“選挙結果合意書にサインするマドゥロ大統領”

この流れからマドゥロ大統領が選挙結果を認めないことは辻褄が合わないが、なりふり構わず政権を維持しようとするれば「選挙結果を認めない」「選挙でイレギュラーが確認されたので選挙をやり直す（そして、再選挙を引き延ばす）」こともあり得るだろう。

「選挙でイレギュラーが確認されたので選挙をやり直す」という事例は、2021年11月の州知事選においてバリナス州で実際にあった。

21年11月のバリナス州知事選では、野党統一候補のフレディ・スペルラノ氏が与党候補のホルヘ・アレアサ氏を下し、当選したかに見えた。

しかし、「選挙管理委員会（CNE）」は「フレディ・スペルラノ氏には元々、公職選の出馬権がなかった」と発表。後出しジャンケンのようにバリナス州知事選は無効になった（[「ベネズエラ・トゥデイ No.685」](#)）。

結局、22年1月に再選挙が実施され、野党のセルヒオ・ガリド候補が当選。CNEは選挙結果を認め、一連の騒動は終結した（[「ベネズエラ・トゥデイ No.701」](#)）。

大統領選はバリナス州知事選と重要性が全く違うので、単純に比較することはできないが、マドゥロ政権が選挙結果をひっくり返したことがある政府であることは頭の片隅に入れておく必要があるだろう。

なお、万が一マドゥロ政権が「選挙結果を認めない」と言い出した時、軍部がどのように対応するかがカギになる。

もし、パドリーノ・ロペス国防相が「憲法規定に違反している」と宣言し、マドゥロ大統領を拘束するようなことがあれば、この試みは失敗する。

パドリーノ・ロペス国防相がマドゥロ大統領への恭順を維持したとしても、マドゥロ政権に不満を持つ軍内部のグループが、武装蜂起を呼びかけ、とんでもない惨事が起きる可能性も排除できない。

武装蜂起が長引き、マドゥロ大統領が政権を維持した状態で内戦が続くことが、考えられる中で最悪のシナリオだろう。

新政府は立法・司法・選挙・民衆と敵対関係

仮にマドゥロ政権が大統領選の結果を認め、ゴンサレス候補が大統領に就任した場合でも懸念材料はある。

それは、政府（行政）以外の公権力である「立法」「司法」「選挙」「民衆」の4権のトップが与党派閥であるということである。

「行政（政府）はゴンサレス政権」、「立法（国会）はマドゥロ派閥が圧倒的多数」となると、政府の行動は大きく制限される。

現在の国会の任期は2026年1月9日に切れるため、2025年中に国会議員選が実施される。大統領が国会解散を宣言し、再選挙を実施しない限り、2026年1月10日までは、ねじれ状態が続くことになる。

また、ゴンサレス候補が当選した時に改めて説明するが、「立法」「司法」「選挙」「民衆」がタッグを組めば、大統領を解任させることは可能である。

ただし、一度ゴンサレス政権が発足してしまえば、欧米諸国が全力で新政権を後押しする。経済回復を受けて、国民の新政権支持が高まり、他の4権がゴンサレス大統領を引きずり落とすことが出来るような雰囲気ではなくなると想像している。

ゴンサレス候補が当選した場合の最大の課題は「マドゥロ大統領が選挙結果を認めるかどうか」につきるだろう。

以上